

小児科クリニックでの診療・相談過程 における父親の役割に関する研究

吉田 弘 道¹⁾

目的

本研究は、小児科クリニックにおける診療・相談過程に父親が参加することの意義および父親参加の役割を検討することを目的としている。

今年度の研究としては、昨年度の報告に引き続いて、診療・相談における父親参加の程度を調べ、父親が参加しやすい条件について検討した。またさらに今年度新たな試みとして、継続して心理相談や発達相談に通ってきている患者の両親に父親の育児協力に関するアンケート調査を実施し、父親の育児協力の程度や協力についての自己評価と母親評価を調査するとともに、父親の育児参加が子どもの発達に及ぼす効果について、事例的に検討した。

方法

調査1：診療・相談への父親参加の調査

1990年3月から12月までに、こどもの城小児保健クリニックを受診した患者を対象に、受診の際の父親の同伴および診療・相談への参加について調べた。方法としては、受診時に子どもを誰が連れてきているのかを、診療および相

談担当者、あるいは受け付け係がチェックする方法を用いた。対象者は456名であり、延べ1582回の診療・相談について調べた。なお、当クリニックは、すべて予約制で診療を行っており、また対象も身体的な病気を患っている子どもというよりは心身の発達に関する問題や情緒行動面での問題をもっている子どもに限られている点が特徴である。

調査2：子どもの育児に関するアンケート調査

当クリニックで継続的に医師の指導や心理相談、発達相談を受けている子どもの両親を対象に、アンケート調査を行なった。調査項目は、父親の育児協力の程度と内容、両親の協力関係、夫あるいは妻の育児に対する評価等28項目であった。今回対象としたのは表2に示した子ども30例の両親である。

調査3：相談担当者に対する調査

指導や相談を行なっている担当者に、調査2を実施した患者の、相談中の話題、父親の協力の程度、子どもの治療の進展状況について記録してもらい、調査1、2の結果と総合して事例

1) こどもの城 小児保健部

的に検討した。

結果

調査1の結果(表1)

延べ相談回数当りの父親参加率は16%であるが、相談日が日曜日である場合の父親参加率は37%と2倍以上に高くなっていた。週日の参加率11%と比較すると3倍以上である。また、小児神経、ダウン症、小児精神、耳鼻科、アレルギの専門外来についてみても、外来日が土曜と日曜である場合には50%以上が父親同伴であった。さらに、心理相談で父親の参加率が高い例も、相談日が土日のものであった。以上の結果より、診療および相談への父親参加は、相談日が土日であるか週日であるかに大きく影響を受けていることが明らかとなった。

調査2の結果(表3)

対象数が30と少ないので統計的な意味付けはできないが、幾つか気付いた点を述べる。まず、父親、母親ともに約70%の父親が積極的に子どもとかかわっていると回答している。また半数以上の父親が、子どもと一緒にいると楽しいと答えている。さらに、父親と母親との関係を見ると、約60%夫婦が、よき理解者や協力者としてお互いに自分達自身を意識するとともに子どものことで助け合っている。これらの結果は、父親が発達障害児や情緒行動障害児の子育てにおいて重要な役割を担っていることを示しているといえる。

しかし、その一方で、仕事が忙しいことや自分の趣味に時間をとられること、さらに子どもに対するかかわり方がわからないことを理由に子どもと積極的にかかわろうとしない父親も30

%いる。また、母親からみて夫の育児協力に不満をもっている者も約半数と高い。このような父親にこそ相談に参加してもらいたいものである。

次に、幾つか否定的な回答や特異的ともいえる回答があった。たとえば、積極的に子どもの相手をしないと回答している父親がその理由として、子どもからの反応がなくなつまらないためと答え、同じ父親が、子どもと一緒にいると悲しくなると書いている。また、情緒面での問題を主訴としている子どもの親に夫婦の信頼関係が良くない、仲が悪いとしている夫婦が10%あった。このような父親にも相談への参加を呼び掛けたいものである。

調査3と事例検討の結果(表4)

相談への父親の参加率が高く両親が互いに協力し合っ子どもに接している事例1は、子どもがのびのびと成長し、良好な発達の变化が見られている。また、父親が相談に参加している事例2では、父親の態度に変化が生じている。しかし、夫婦関係が良くないことが根深く影響し、家族力動全体が子どもの成長にとってプラス力をもつまでに至っていない。それでも、参加しないよりは子どもの支えとなっている。

これに対し、参加が少ない事例3では、子どもにそれなりの変化が生じているが、母親の父親への不満は強く、相談担当者の方でも両親の協力を期待している。また事例4は母親が母子密着を維持するために父親が相談に参加することを拒んでいる。この事例は治療の進展がみられていない。

まとめ

1、相談への父親の参加を考えるならば、父親が参加しやすい土曜日や日曜日を開業するような条件を整えることが有効である。

2、発達障害児や情緒障害児をもっている多くの父親は、比較的育児に協力しているようである。しかし、子どもの相手の仕方がわからない父親もあり、そのような父親への援助のためにも相談への参加が期待される場所である。

3、相談に父親が参加し、しかも夫婦関係が良好である場合に、子どもに発達の変化や情緒行動面での変化が生じやすい。夫婦関係が良好でなくても、父親も相談に参加してくれることにより、父親の態度が子どもにとってプラスの効果をおよぼすように変わる可能性がある。

4、心理的な問題を子どもがもっている場合には夫婦関係にマイナス要因がみられることがある。このような場合には、時期を検討しながら父親にも相談に参加してもらい、家族力動の変化に向けてのアプローチの必要性が考えられるべきである。

表1 妊産および相談への父親の参加について
こどもの城小児保健クリニック (1990, 3~12)
割合は各延べ回数を100とした場合の数値である。

全対象人数	456名	検査回数 (延べ回数)	104
延べ妊産相談回数	1582回	父親参加回数	15
父親参加回数	261回 (16.4%)		(14.4%)
週日の延べ回数	1253	心理相談延べ回数	558
父親参加回数	138 (11.0%)	父親参加回数	63 (11.0%)
日曜日の延べ回数	329	参加率の高い例(母体15例)	
父親参加回数	123 (37.3%)	100%2例、73%1例、 58%1例、50%1例	
専門外来週日回数	70	言語相談延べ回数 (11回)	132
父親参加回数	13 (18.6%)	父親参加回数	6 (4.5%)
専門外来土日回数	148	健康診断延べ回数	138
父親参加回数	75 (50.7%)	父親参加回数	8 (6.5%)
発達相談延べ回数 (10回)	43	肥満外来延べ回数	118
父親参加回数	17 (39.0%)	父親参加回数	8 (7.6%)
初診回数	244		
父親参加回数	48 (19.7%)		

表2 子どもの育児に関するアンケート調査の対象者

	幼児	小学生	中学生	計
精神発達遅滞	4	1		5
言語発達遅滞	3			3
染色体異常	5			5
集団不適応	4	5	1	10
神経性習癖	2	2		4
登校拒否		2		2
その他 (異いこととさか れ)	1			1
				30名

表3 子どもの育児に関するアンケートの結果
30例の結果 (主な項目について)

	父親の結果	母親の結果
○子どものことで相談した方がいいと言い出したのは 父親 母親 両親と一緒に その他(医師に勧められてなど)	3 (10. 0) 21 (70. 0) 5 (16. 7) 1 (3. 3)	0 23 (76. 7) 4 (13. 3) 3 (10. 0)
○ご主人は(父親の場合には「あなたは」)子どもの相手をとるべく積極的にしているか とる程度積極的にしている あまり積極的にしていない 全くしていない	3 (10. 0) 18 (60. 0) 9 (30. 0) 0	7 (23. 3) 14 (46. 7) 8 (26. 7) 1 (3. 3)
○積極的に相手をしているのは(上で積極的と回答) 妻にいわれているから 妻まかせにしているといけないと思うから 子どもにいろいろなことを教えたいから 子どもが好きだから 子どものことが心配だから	0 4 (17. 4) 9 (39. 1) 7 (30. 4) 3 (13. 0)	1 (4. 3) 2 (8. 7) 4 (17. 4) 10 (43. 5) 6 (26. 1)
○積極的に相手をしないのは(上で非積極的と回答) 仕事以外活動や趣味で忙しいから 仕事中の相手は疲れるから 子どもの相手が疲れるから 子どものことが関心がないから 子どもの方が忙しいから その他(相手の仕方がわからない、つまらないから)	5 (50. 0) 1 (10. 0) 0 0 1 (10. 0) 3 (30. 0)	4 (40. 0) 1 (10. 0) 2 (20. 0) 1 (10. 0) 0 2 (20. 0)
文章完成法式の項目の結果		
○子どもと一緒にいると私は 肯定的(しあわせ、楽しい、相手をしよう、など) 否定的(自分のことができない、悲しくなる、) 両面的(楽しく疲れる、楽しいがいらぬ、する) その他(なおそうしてしまおう、口うるさくなるの) で反省、かかわろうと思うが十分にできない) 回答拒否	16 (53. 5) 4 (13. 3) 5 (16. 7) 4 (13. 3) 1 (3. 3)	8 (26. 7) 2 (6. 7) 10 (33. 3) 10 (33. 3) 0
○妻と私は、夫と私は、 肯定的(よき理解者、友達、相手を大切に) プラス的方向性(いい夫婦になりたい、) 否定的(意見が合わない、仲が悪い、不信) 子どものこと(子どもと一緒に成長、子どものこと) を考えている、子ども主体) その他(昨日~した、一緒に暮らしている) 回答拒否	5 (16. 7) 1 (3. 3) 3 (10. 0) 14 (46. 7) 4 (13. 3) 3 (10. 0)	14 (46. 7) 6 (20. 0) 3 (10. 0) 5 (16. 7) 1 (3. 3) 0
○夫の家事育児に対する母親の見方 肯定的(よくやっている、努力している) 批判的(積極的ではない、期待していない、 子どもを理解していない、不満) 両面的(よくやってくれるが時間が足りない) 回答拒否		14 (46. 7) 14 (46. 7) 1 (3. 3) 1 (3. 3)
○妻の家事育児に対する父親の見方 肯定的(よくやっている、立派、大変だ) 批判的(バランスがとれていない、いらいら している) 両面的(上手であるが自己中心的、) その他(子どもの相手をもっとしたいだろ うにできなくてかわいそう) 回答拒否	20 (66. 7) 3 (10. 0) 3 (10. 0) 1 (3. 3) 1 3 (10. 0)	

実数(名)と割合(%)

表4 父親の相談への参加、協力と子どもの変化（事例検討）

事例1 「相談への参加率73%と高い例」

幼児、染色体異常、相談歴5年、隔週の日曜日に相談

◎アンケートの回答

相談に来ることを決めたのは：父親。両親で一緒に。母親。母親の妹に勧められて。
 子どものことを心配しているか：父親。大変に心配している。母親。心配している。
 相談に来るようになってから親の態度に変化があったか：
 父親。あった。とびぬけて立派な子でなくても日常生活が支障なくできるようになってくれれば良いと考えられるようになった。
 母親。あった。不安が減少した。
 父親の協力：帰宅時間が7時。ほぼ毎日子どもと一緒に風呂に入ったり、おしゃべりをしたり、夕食をたべたりできる。
 父親の協力について：父親自身。ある程度積極的にやっている。
 理由。子どもにいろいろなことを教えたいから。
 母親評。とても積極的にやっている。
 理由。子ども好きだし、皆と協力している。
 お互いの評価：父親は妻を評して。子どもの成長を真剣に思っている。
 母親は夫を評して。よくやってくれている。

文章完成法式項目

子どもといると私は——父親。子どもと友達同志のようにつきあう。
 母親。楽しい、かわいい、成長が楽しみである。
 妻と私は（父親）——子どもを主体とした家庭生活を考える。
 夫と私は（母親）——子育てで協力しあっている。障害児であることでかえって良い関係が生じている。

◎相談担当者の見方

両親がお互いに評価し合っている。また協力して子育てをしている。祖父母の協力もあり、良い発達が生じている。

事例2 「父親と母親が交互に相談に来ており、参加率50%と高い例」

小学生、集団の中で落ち着きがない、相談歴2年、毎週土曜日に相談。

◎アンケートの回答

相談に来ることを決めたのは：父親。父親、母親。母親。
 子どものことを心配しているか：父親。それほど心配していない。
 母親。心配している。
 相談に来るようになってから親の態度に変化があったか：
 父親。あった。子どもに文句を言わないようにしている。
 母親。あった。子どもをあまりしからないようにしている。
 父親の協力：毎日帰宅時間が深夜近くであるために、週日の協力は無い。
 父親の協力について：父親自身。ある程度積極的にやっている。
 理由。子どもが好きだから。
 母親評。あまり積極的にやっていない。
 理由。子どものことに関心がないから。
 お互いの評価：夫は妻を評して。子育てについては多少母親の主張の方が強い。
 妻は夫を評して。私が頼むとしてくれるが自分からはしてくれない。自分のことが優先する。

文章完成法式項目

子どもといると私は——父親。つつい口うるさくなるので反省したい。
 母親。楽しいこともいろいろすることもあるがほっとする。
 妻と私は（父親）——仲良く健康的な家庭をつくっていききたい。
 夫と私は（母親）——お互いに信頼感がなく、夫は子どもや家庭のこととなると話し合いにならない。

◎相談担当者の見方

相談には両親が参加しており、それぞれ努力をしているが、お互いに評価が低い。夫婦の感情面の行き違いもある。夫婦面接も考えられるが、それ以前に父母それぞれの心理的な課題が解決される必要がある。子どもの情緒行動的な問題は、なかなか解消しない。

事例3「相談への参加率が4% (1/25) と低い例」

幼児、言葉の遅れ、相談歴1年、週日に相談、

◎アンケートの回答

相談に来ることを決めたのは：父親。父親が決めた。母親。母親が決めた。
子どものことを心配しているか：父親。心配している。母親。心配している。

相談に来るようになってから親の態度に変化があったか：

父親。これから変えようとしている。

母親。あった。言葉かけを多くし、会話を引き出そうとしている。

父親の協力：帰宅時間が9時以降であり、休日しか相手ができない。

父親の協力について：父親自身。母親評。ともに、あまり積極的にやっていない。

その理由は、両者とも、仕事が忙しいから。

お互いの評価：夫は妻を評して、毎日いらいらしている。私が非協力的だという。

妻は夫を評して、子どものつきあいが下手である。もつとたくさん誉めてほしい。

文章完成法式項目

子どもといると私は———父親。楽しいが長くなるといらいらする。

母親。しっかり遊んであげなくてはと思うが、充分にできない。

妻と私は（父親）———意見が違う場合がある。

夫と私は（母親）———いろいろなことを深く話し合っ互いに理解し、考えを統一していくようにしたい。

◎相談担当者の見方

母親からは、夫婦の間で子どもの見方や育て方が違っていることが話されている。

子どもにある程度の発達のな変化は生じているが、母親は父親に不満を訴えており、母親と父親とがもっと協力し合っ子どもにかかわることが必要であろう。

事例4「母親が父親の相談への参加を拒んでいる例」

小学生、登校拒否、相談歴2年、週日に隔週の相談、

◎アンケートの回答

相談に来ることを決めたのは：父親。母親。ともに、母親。

子どものことを心配しているか：両親ともに、大変心配している。

相談に来るようになってから親の態度に変化があったか：

父親。回答なし。

母親。あった。子どもの気持ちをくんで、よく話を聞いてあげるようになった。

父親の協力：朝食、夕食を一緒に食べる、話をする、など月に1・2回あるかないか。

父親の協力について：父親自身。あまり積極的にやっていない。

理由。子どもの方が忙しいから。

母親評。あまり積極的にやっていない。

理由。子どもがあそびたがらないから。

お互いの評価：夫は妻を評して、家事よりも子育てに8割を費やす、アンバランス。

妻は夫を評して、子どものことを本当に理解していない。

文章完成法式項目

子どもといると私は———父親。安心すると同時に不安がよぎる。

母親。心が落ち着いていられる。

妻と私は（父親）———なかなか意見が一致しない。

夫と私は（母親）———わがままだし、仲が悪い。

◎相談担当者の見方

父親は、相談に参加する用意はある。しかし、母子密着が強く、母親が相談への父親の

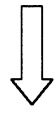
参加を拒んでいる。また、父親の価値を下げようとする話が語られている。

母子共生関係が持続し治療は進展していない。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

本研究は、小児科クリニックにおける診療・相談過程に父親が参加することの意義および父親参加の役割を検討することを目的としている。

今年度の研究としては、昨年度の報告に引き続いて、診療・相談における父親参加の程度を調べ、父親が参加しやすい条件について検討した。またさらに今年度新たな試みとして、継続して心理相談や発達相談に通ってきている患者の両親に父親の育児協力に関するアンケート調査を実施し、父親の育児協力の程度や協力についての自己評価と母親評価を調査するとともに、父親の育児参加が子どもの発達に及ぼす効果について、事例的に検討した。